

オーガニックコットン栽培農家さんをご紹介します。 第4回 藁谷登さん・佐藤保男さん

いわき市の中心市街地から12キロに位置する小川町は、阿武隈山系に囲まれた緑豊かな美しい地区です。藁谷登さん(67歳)は、3年前からコットン栽培を始めました。平成元年、無人駅となったJR磐越東線小川郷駅のすぐ側にある藁谷さんの畑は120坪ほど。「畝作りや種まきの時期、収穫時期などに応援いただければ、後は毎日楽しみながらやっていけるんです」と余裕のお顔でした。定年退職後に家の回りで始めた畑作りでは、ネギや落花生などボランティアが応援に来られた折に一緒に起こし、お土産として持たせてあげながら交流するのが楽しみだと言います。「小川郷駅を守る郷の会」のメンバーとして活動する一方、近くの小学校でのコットン栽培時には気軽に駆けつけ応援するなど藁谷さんの行動は、郷土を愛する優しさに溢れています。

同地区で一年遅れでコットン栽培に参加した佐藤保男さん(69歳)は、野菜と米を栽培する専業農家でした。ところが4年前に脳梗塞を患い農作業の全てを息子さんに引き継ぎました。毎日自分の事だけで精一杯だった佐藤さんが、コットン栽培を引き受けたのは、200坪程ならリハビリになるかもしれないと考えたからです。「当初20分位しか動けなかった体が今は1時間は大丈夫になったんです」と話す表情には自信と喜びが溢れていました。年間栽培日誌には、詳細な記録と写真がギッシリ綴られていて佐藤さんの真剣さと情熱が伝わってきます。

現在この地区には、東日本大震災の被災者ための復興住宅130戸が建設されています。

「新しい人たちと交流しながらコットン栽培をしっかりと根づかせて行きたい」と夢を語るお二人はどこまでも前向きでした。



全国から綿が続々届いています

毎年12月になると全国から収穫した綿が本会に送られてきます。今年1月までに既に50人ほどの方々から届いていますが、中には種を除いたフワフワの状態にしたものもあり苦労が忍ばれます。毎年送って下さる方からは「今年は凄くいい綿が採れましたよ」とダンボール一杯に。また「初めてやりましたが、余り採れませんでした。楽しかったので来年も挑戦します」と封筒に入れて送って下さる方等、暖かいメッセージが添えられていて開封するのが楽しみな毎日です。

岡崎市のイオン岡崎南チアーズクラブの皆様からは、小学生が自宅で育てたコットンを持ち寄り綿と種を分けている写真と、挑戦した一人一人の顔写真が送られてきました。

実は昨年6月イオン岡崎南店から突然連絡を頂きました。チアーズクラブの活動の一つとしてオーガニックコットンの栽培を決めたので、60本の苗を送って頂きたいというものでした。栽培するには時期的にギリギリでしたが、手元にあった少々伸び過ぎた感じの15センチの苗を送ることが出来ました。(ポット栽培のものを移植するには10センチ位が最適です)

今年オーガニックコットンを自宅で栽培してみませんか。種を希望される方には、今年時々の間に合うようにお送りします。4月から5月に蒔きますと7月にはオクラに似た可愛い黄色い花が咲きます。9月末から収穫できます。勿論栽培するには化学肥料や除草剤などは一切使用せず有機肥料でなければいけません。栽培方法の説明書きも同封しますのでどなたでも育てられます。希望する方は是非、事務局にご一報下さい。



歩みだすチャリティーショップネットワーク

WE21ジャパン(神奈川)、中部リサイクル運動市民の会(愛知)、エコ・メッセ(東京)セカンドハンド(香川)、オックスファム・ジャパン(東京)、そして私たち・ピープル(福島)。これらの団体に共通しているのが、チャリティーショップを運営しているということです。市民から寄付された、まだ使える物品をボランティアなどの協力を得て販売し、その収益を非営利活動に活用する…。それが、チャリティーショップです。このほど、チャリティーショップの活動を更に広げようと、この6団体によって全国規模のネットワーク組織を立ち上げました。

これまで、チャリティーショップの先進地であるイギリスでの状況を視察するなどして、立ち上げ準備を進めてきましたが、1月30日にはネットワーク立ち上げを記念するシンポジウムを横浜市で催し、各団体の活動についての情報を交換し合うことになっています。ほかの5団体と比較し、私たちに独自性があるとすれば、それは「古着を燃やさない社会づくり」からスタートしているということ。そして東日本大震災という災害時にこうした広域的なネットワークが機能できることを身を以て学んでいることです。リサイクルショップからチャリティーショップへ。単なる名称の変更だけではない活動の広がりにご注目下さい。

新しい仲間「モンキーベイブ」が誕生!

今年の干支は「猿」。本会では昨年暮れから試作品に挑戦し始めましたが、問題は2.4ミリの木球に描く猿の顔の表情です。なかなか猿らしく見えず羊でしようと言われたりして苦労しました。つぶらな瞳、真っ赤な顔、横にはみ出した大きな耳、極めつきは猿特有の顔の輪郭を描くことでした。年末にようやく猿らしい表情になり「モンキーベイブ」と命名し遂にデビューさせることが出来ました。

この会報上でどんなに説明しても皆様には可愛らしさは伝わりません。ともかく手に取ってご覧ください。ストラップ付きですので常に身に付けて頂けます。この一年間幸せな気分でご過ごせること請け合いですよ。

本会ではこの「モンキーベイブ」の誕生で9種類のお人形が勢ぞろいしました。改めて全員ご紹介いたします。どの子も可愛いと人気の商品です。2ヶ返は郵送料無料。3ヶ以上ですと郵送料500円です。数日でお手許に届きますので事務局へお申し込み下さい。



ベイブ作り教室の申し込み受付中です

種の付いたままの綿を使って可愛いお人形を作るのが今、大人気です。いわき市内の小学校では自分たちで栽培した綿を使ってベイブを作っていますが、県外からの希望も多く、数十人分でもセット一式と作り方のDVDを添えて届けています。

また直接スタッフが現地を訪問して「ベイブ作り教室」も要望に応じて開催しています。全国から年間を通し申し込みが相次いでいます。スケジュールの関係がありますのでお早めに申し込みください。

今までは帽子をかぶった「キャップちゃん」のみを作る教室を開催してきましたが、今年からはストラップが付いた身に着ける事ができる「ライオン君」と氷山の前で佇む愛くるしい「ペンギン君」の人気が多いことから、追加して取り組むことにしました。又一点ごとのキットを作成して販売も致しますのでご相談ください。

PCCリスポ店が移動しました

PCCリスポ店(ピープルコミュニティセンターの略)はピープルの古着販売の直営店ですが、1月13日に移転しました。10年間皆様に親しまれてきた場所ですが、店舗の奥に荷物搬出入用のエレベーターがあり、通路の空きスペースを活用した店舗であった為、何かと不便をきたしていました。移転した場所はリスポ店内で、本会が運営していた小名浜地区交流サロンがあった所です。このサロンは「ピープル広場」としてピープル事務局に移動しました。今までよりスペースも広く明るい店舗です。スタッフ一同お客さまに喜んでいただける店づくりをしようと意欲を燃やしています。変わらないご愛顧をお願いいたします。



本会主催のフリーマーケットを終了します

フリーマーケットの開催につきましては、アクロスプラザ南側駐車場で5年間実施して参りましたが、27年度をもって終了させていただきます。毎月1回4月開始で11月までの8回開催して来ましたが、屋外開催だったため突然の雨や強烈な突風、また異常な程の暑さ等、天候の変動に悩まされ、まともな開催に至らなかった一年間でした。こうしたことから今年度を以てフリーマーケットの開催を終了することに致しましたので、何卒ご了承ください。

出店にご協力下さった皆様、楽しみにご来店くださった多くの皆様、永い間本当に協力有り難うございました。

私たちの活動を会員として支えて下さい。
会費納入をよろしくお願い致します。

会費：活動会費(実際に活動に参加される方と、会報の講読という形で支援して下さる方) 2,000円/年
賛助会員(資金的な面から支えて下さる方と法人・団体会員) 10,000円/年

郵便振替(02110-0-24908)でお送りください。